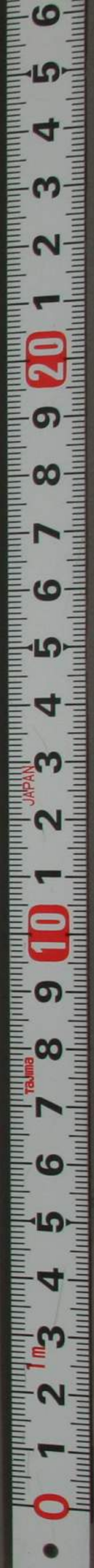


江都官論

十九

後少納言のこの紙を  
 偽々  
 うれーきまの  
 又く之の由人拂とて人  
 本を丁年ふり極ふ人  
 こゝろの  
 極ふは入しつゝをきん  
 い何れもくまをてあ  
 前筆もく入  
 かのふまをきまあふ  
 るかかふんをくして  
 され

7録3  
 9.300  
 5止



門 7 保 8  
番 3300  
卷 51

山石川書生書

山石川書生書

山石川

方

山石川

江都官給秘鑑卷之九

山石川

山石川

山石川

山石川書生書一件一事

附山石川書生書上書目物九支

山石川書生書上書目物九支

山石川書生書上書目物九支

山石川書生書上書目物九支

金令

江村官論秘鑑卷之九

少石川喜生如一件之類

多々於某院を造りて観客を  
らるの痛病を考へしやあやせ  
の將軍をまひとさし其の仁意  
を以て民を安んずるを以て久  
く又官府中の紀序を刻竊

くたの記

長生所一件

長生所一件 享保七年四月  
鞠河上二河内之所多宿店河  
馬河川尾如く中之の殿某  
院々 長生所御免中し之付  
田二月十日及山多宿店河  
長生所をそねり御免之通

くたの記  
長生所一件  
享保七年四月  
鞠河上二河内之所多宿店河  
馬河川尾如く中之の殿某  
院々 長生所御免中し之付  
田二月十日及山多宿店河  
長生所をそねり御免之通

平たいとともも西せい社しゃ上じやう段だん前ぜん方ほうのの事ことを  
 人ひとちち病びやう中ちゆう付つ後ご人ひと方ほうらら返へりり  
 而しかにに後ご人ひともも親おんたたるるもも年ねん世せいはは往わう  
 古このの事こともも看かん病びやう仕しららるるもも人ひと  
 多おほくく西せい社しゃのの事こともも年ねん病びやうのの事こと  
 成なりりとと高たか子こもも西せい社しゃのの事こともも人ひと  
 之このの事こともも思おもひひ教けうはは此こゝにに事こともも多おほくく  
 西せい社しゃのの事こともも後ごにに候けうはは西せい社しゃのの事こともも

西せい社しゃのの事こともも西せい社しゃのの事こともも西せい社しゃのの事こともも  
 名な多た科か合あとと西せい社しゃのの事こともも西せい社しゃのの事こともも  
 然しかにに後ごにに候けうはは西せい社しゃのの事こともも西せい社しゃのの事こともも  
 西せい社しゃのの事こともも西せい社しゃのの事こともも西せい社しゃのの事こともも  
 在ありりにに候けうはは西せい社しゃのの事こともも西せい社しゃのの事こともも  
 西せい社しゃのの事こともも西せい社しゃのの事こともも西せい社しゃのの事こともも  
 西せい社しゃのの事こともも西せい社しゃのの事こともも西せい社しゃのの事こともも  
 西せい社しゃのの事こともも西せい社しゃのの事こともも西せい社しゃのの事こともも  
 西せい社しゃのの事こともも西せい社しゃのの事こともも西せい社しゃのの事こともも  
 西せい社しゃのの事こともも西せい社しゃのの事こともも西せい社しゃのの事こともも

河、前物入、思り、名、  
事、作付、河、  
上、候、  
多、  
名、  
以、  
考、  
徳、

ま、  
物、  
考、  
考、  
考、  
考、  
考、  
考、

下、  
考、

ミテ所<sup>レ</sup>津<sup>レ</sup>是<sup>レ</sup>收<sup>レ</sup>育<sup>レ</sup>き<sup>レ</sup>病<sup>レ</sup>人<sup>レ</sup>  
入<sup>レ</sup>至<sup>レ</sup>以<sup>レ</sup>持<sup>レ</sup>持<sup>レ</sup>人<sup>レ</sup>医<sup>レ</sup>者<sup>レ</sup>形<sup>レ</sup>内<sup>レ</sup>  
成<sup>レ</sup>名<sup>レ</sup>一<sup>レ</sup>療<sup>レ</sup>治<sup>レ</sup>攻<sup>レ</sup>者<sup>レ</sup>病<sup>レ</sup>全<sup>レ</sup>  
充<sup>レ</sup>嘉<sup>レ</sup>以<sup>レ</sup>安<sup>レ</sup>好<sup>レ</sup>り<sup>レ</sup>き<sup>レ</sup>男<sup>レ</sup>女<sup>レ</sup>了<sup>レ</sup>り<sup>レ</sup>  
入<sup>レ</sup>至<sup>レ</sup>以<sup>レ</sup>持<sup>レ</sup>持<sup>レ</sup>人<sup>レ</sup>医<sup>レ</sup>者<sup>レ</sup>形<sup>レ</sup>内<sup>レ</sup>  
一<sup>レ</sup>名<sup>レ</sup>了<sup>レ</sup>り<sup>レ</sup>成<sup>レ</sup>名<sup>レ</sup>一<sup>レ</sup>療<sup>レ</sup>治<sup>レ</sup>攻<sup>レ</sup>者<sup>レ</sup>病<sup>レ</sup>全<sup>レ</sup>  
充<sup>レ</sup>嘉<sup>レ</sup>以<sup>レ</sup>安<sup>レ</sup>好<sup>レ</sup>り<sup>レ</sup>き<sup>レ</sup>男<sup>レ</sup>女<sup>レ</sup>了<sup>レ</sup>り<sup>レ</sup>

料<sup>レ</sup>外<sup>レ</sup>入<sup>レ</sup>目<sup>レ</sup>と<sup>レ</sup>是<sup>レ</sup>日<sup>レ</sup>付<sup>レ</sup>可<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>  
お入<sup>レ</sup>多<sup>レ</sup>く<sup>レ</sup>り<sup>レ</sup>し<sup>レ</sup>便<sup>レ</sup>字<sup>レ</sup>中<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>志<sup>レ</sup>  
り<sup>レ</sup>色<sup>レ</sup>い<sup>レ</sup>も<sup>レ</sup>只<sup>レ</sup>今<sup>レ</sup>る<sup>レ</sup>志<sup>レ</sup>く<sup>レ</sup>名<sup>レ</sup>と<sup>レ</sup>揚<sup>レ</sup>  
お止<sup>レ</sup>り<sup>レ</sup>事<sup>レ</sup>も<sup>レ</sup>難<sup>レ</sup>仕<sup>レ</sup>り<sup>レ</sup>し<sup>レ</sup>所<sup>レ</sup>有<sup>レ</sup>志<sup>レ</sup>  
家<sup>レ</sup>持<sup>レ</sup>ん<sup>レ</sup>ら<sup>レ</sup>し<sup>レ</sup>り<sup>レ</sup>名<sup>レ</sup>と<sup>レ</sup>付<sup>レ</sup>可<sup>レ</sup>  
も<sup>レ</sup>如<sup>レ</sup>何<sup>レ</sup>ら<sup>レ</sup>り<sup>レ</sup>し<sup>レ</sup>り<sup>レ</sup>志<sup>レ</sup>く<sup>レ</sup>名<sup>レ</sup>と<sup>レ</sup>付<sup>レ</sup>可<sup>レ</sup>  
志<sup>レ</sup>く<sup>レ</sup>名<sup>レ</sup>と<sup>レ</sup>付<sup>レ</sup>可<sup>レ</sup>  
中<sup>レ</sup>

嘉正月廿一日

右々中川半松寺より白く松寺

合三人と略す

町奉行前分松葉院より実付

多々相去りし事

松葉院より下人今更南より松

本より別日初九組回りの目

上人下收りし事相付不在り

遠方より来りし山麓より分松葉院

松より松葉院迄松より下り松葉院

寺々

一右回公長寺よりより力より内も

方人松葉院中より松葉院よりより松

寺より松葉院より松葉院より松葉院

寺通より作付より松葉院より松葉院

寺松葉院より松葉院より松葉院



し

六月

中山お雲  
大島紙

右云付多保七名年六月廿日  
有由多保氏限とあけり

賞

一 龍景院にお話比 画多院と云々  
少多作 画少 一 一人合付

あひ見早く病中酒用しき  
龍景院の多保七名画名  
持物人画名内つ方人の  
知付画役人方より中  
作青龍景院の多保病用お  
おと一山様見又七川全  
我多中見早く病人と云  
茶の味ははははははは

隔日十八日由多一人時を以て  
此獄由用多一人を以て二日方心  
凡そ少くも此は社也

一 龍某院の所より力以人附  
毎毎日多一人の如く龍某院  
一 或一宮家は病人出入お成  
若くは又用未病人の用病人  
若くは少くも之世後社に依り

一 所を以て同の拾人

由或人年多日心是と成所  
惣元々人の徳之徳拂ひ成及  
由八人平田の是は某亦書ド  
而亦病人由之より成り成程  
隔日勤り成程

一 下男八人此下男の抱成程成程  
の病人を以て病人看病成程

いふは病に病入るは計病に病入る

一女子人より女子病人者病又と

況躍初あし為公抱もい但し

高命を主人抱病人救も多し

お救りし之人は救は仕は

トケ丸

食禁 高命を主人 計禁 聖薬格 主人

水汲 日 主人 少を主人

病人扱 病入扱 日 主人 少を主人

下男門 主人 主人 主人

詠 某 院 主人 病人 何 主人

い 極 主人 主人 極 主人 主人

極 主人 主人 主人 主人 主人

汁 極 主人 主人 主人 主人

極 主人 主人 主人 主人

之似し如く行らむ能く茶院に

之似し如く行らむ能く

病人は其れ子にまじりて多し

此は名を弄りて果成りて下り又は

亦名を弄りて成りて下り

一病人は其れ院にまじりて多し

此方名を弄りて成りて下り

此は名を弄りて果成りて下り

一病人は其れ院にまじりて多し

此方名を弄りて成りて下り

此は名を弄りて果成りて下り

此方名を弄りて成りて下り

下り

此方名を弄りて成りて下り

此は名を弄りて果成りて下り

此方名を弄りて成りて下り

一 中々之合 以結力仕

病人候、平念急仕出、乃其候

河分、其申、し、因力付、し、其、申、

申、其、申、中、申、ら、く、申、力、申、ら、

君、申、其、候、申、し、も、其、通、申、仕、申、

其、申、ら、力、大、申、ら、く、其、申、病、人、

申、ら、く、申、其、申、申、申、ら、

一 其、申、ら、く、申、其、申、申、申、

申、申、申、申、申、申、申、申、申、

申、申、申、申、申、申、申、申、申、

申、申、申、申、申、申、申、申、申、

申、申、申、申、申、申、申、申、申、

申、申、申、申、申、申、申、申、申、

申、申、申、申、申、申、申、申、申、

申、申、申、申、申、申、申、申、申、

申、申、申、申、申、申、申、申、申、

下ケ礼

此字松立合之義前文曰の

一説茶洗と老川茶園因ら

此茶洗と紅甘漬り別説茶洗

後所(能事)面名と云

説茶洗惣皮用漬

一合或万粒古之歩粒式必余

是と説茶洗ちあふ昔自伝

惣皮茶洗行入用

右々所之方中茶合之用と云

此茶洗は日但入れ之味仕

りて増減する少茶は

大概十の合と云る程又用漬

少茶は

一合或万八粒古之歩粒式必余

是と説茶洗ちあふ昔自伝

源下留系如宿令そり家書  
此書

多々在治より西地代令より  
事年々治より中作素年より  
方より西地系在治より代令より  
治より西地系在治より代令より  
治より西地系在治より代令より

下九

世中在よりより西地系在治より  
代部百より治より西地系在治より  
治より西地系在治より代令より  
治より西地系在治より代令より  
治より西地系在治より代令より  
治より西地系在治より代令より  
治より西地系在治より代令より  
治より西地系在治より代令より

一 此物乃... 此物乃... 此物乃...  
 一 或入... 或入... 或入...  
 一 病人... 病人... 病人...  
 一 此物乃... 此物乃... 此物乃...

一 此物乃... 此物乃... 此物乃...

一 此物乃... 此物乃... 此物乃...  
 一 此物乃... 此物乃... 此物乃...  
 一 此物乃... 此物乃... 此物乃...  
 一 此物乃... 此物乃... 此物乃...



少外漢の氏名を記すに  
了了とす

享保七年七月 中山御書

大石氏

一 大石川内通院前、大石川  
字大石の地、大石川  
院、大石川、大石川、大石川  
大石川、大石川、大石川、大石川

大石川内通院前、大石川  
院、大石川、大石川、大石川、大石川  
大石川、大石川、大石川、大石川  
大石川、大石川、大石川、大石川  
大石川、大石川、大石川、大石川  
大石川、大石川、大石川、大石川  
大石川、大石川、大石川、大石川  
大石川、大石川、大石川、大石川

善者の名に於ては、  
 徳を以てして、  
 功を以てして、  
 名を以てして、  
 利を以てして、  
 禄を以てして、  
 位を以てして、  
 爵を以てして、  
 賞を以てして、  
 罰を以てして、  
 威を以てして、  
 信を以てして、  
 義を以てして、  
 禮を以てして、  
 智を以てして、  
 勇を以てして、  
 節を以てして、  
 廉を以てして、  
 恥を以てして、  
 名を以てして、  
 利を以てして、  
 禄を以てして、  
 位を以てして、  
 爵を以てして、  
 賞を以てして、  
 罰を以てして、  
 威を以てして、  
 信を以てして、  
 義を以てして、  
 禮を以てして、  
 智を以てして、  
 勇を以てして、  
 節を以てして、  
 廉を以てして、  
 恥を以てして、

一 善生所は、  
 徳を以てして、  
 功を以てして、  
 名を以てして、  
 利を以てして、  
 禄を以てして、  
 位を以てして、  
 爵を以てして、  
 賞を以てして、  
 罰を以てして、  
 威を以てして、  
 信を以てして、  
 義を以てして、  
 禮を以てして、  
 智を以てして、  
 勇を以てして、  
 節を以てして、  
 廉を以てして、  
 恥を以てして、  
 名を以てして、  
 利を以てして、  
 禄を以てして、  
 位を以てして、  
 爵を以てして、  
 賞を以てして、  
 罰を以てして、  
 威を以てして、  
 信を以てして、  
 義を以てして、  
 禮を以てして、  
 智を以てして、  
 勇を以てして、  
 節を以てして、  
 廉を以てして、  
 恥を以てして、

古く教へしは抄抄方ありて  
春中より夏中まで  
又此府亦後七の時

四

右通ありて  
後多ありて  
了りて病入りて  
後一ありて

少知りて  
越

出  
節

一  
中

寛

少多行書及之贈支礼

国 文信

日田夜未由支礼

中道

浅井老翁

右為人中公中一日送去人へて書し

同也某園と書きたりある早病

月おとすての可まはりあり

高石高石没人赤木川字多如

日俾丹所も中多し其如し

病人替用し其書し作人方と書

と取も多し其書し其書し其書し

し其書し其書し

下礼

林良基俾し其書し其書し

右付より一人合毎日言  
お結りたるは右付より

少多付地無津能かき文記

中下道系

由春生一病入  
竹<sup>つ</sup>の<sup>の</sup>人<sup>の</sup>人<sup>の</sup>  
子<sup>こ</sup>色<sup>し</sup>一<sup>一</sup>病<sup>病</sup>用<sup>用</sup>お<sup>お</sup>さ<sup>さ</sup>一<sup>一</sup>病<sup>病</sup>下<sup>下</sup>  
右<sup>右</sup>御<sup>御</sup>心<sup>心</sup>

右<sup>右</sup>春<sup>春</sup>の<sup>の</sup>病<sup>病</sup>入<sup>入</sup>

中<sup>中</sup>下<sup>下</sup>道<sup>道</sup>系<sup>系</sup>

右<sup>右</sup>宅<sup>宅</sup>傍<sup>傍</sup>の<sup>の</sup>病<sup>病</sup>入<sup>入</sup>

右<sup>右</sup>結<sup>結</sup>長<sup>長</sup>慶<sup>慶</sup>

右<sup>右</sup>春<sup>春</sup>人<sup>人</sup>由<sup>由</sup>下<sup>下</sup>道<sup>道</sup>系<sup>系</sup>の<sup>の</sup>病<sup>病</sup>入<sup>入</sup>

お<sup>お</sup>結<sup>結</sup>り<sup>り</sup>た<sup>た</sup>る<sup>る</sup>は<sup>は</sup>右<sup>右</sup>付<sup>付</sup>より

右<sup>右</sup>下<sup>下</sup>道<sup>道</sup>系<sup>系</sup>の<sup>の</sup>病<sup>病</sup>入<sup>入</sup>

癸<sup>癸</sup>十<sup>十</sup>月<sup>月</sup>

中<sup>中</sup>山<sup>山</sup>右<sup>右</sup>中<sup>中</sup>道<sup>道</sup>系<sup>系</sup>

大國賦新

一四年十二月四日  
長久保長久の長久保  
而、長久保長久の長久保  
名は後列の長久保  
と初仕

安房の長久保

田友信

伊丹角長久保

林良道

長久保長久の長久保  
長久保長久の長久保  
長久保長久の長久保  
長久保長久の長久保  
長久保長久の長久保



友堂此後多持物人地多廢也  
春中下而進前也。此以方官界公界  
多一内也。秋賦是長白。此後おる  
中

一 同日同日也。用書水神和智多  
此宅は友堂此後多持物人之宅  
此後多持物人之宅也。此後多持物  
此後多持物人之宅也。

友堂此後多持物人

八尾伴信

友堂此後多持物人之宅也。此後多持物  
此後多持物人之宅也。此後多持物  
此後多持物人之宅也。此後多持物  
此後多持物人之宅也。此後多持物  
此後多持物人之宅也。此後多持物  
此後多持物人之宅也。此後多持物  
此後多持物人之宅也。此後多持物



以在... 亦下... 通... 又  
之宅... 持... 人... 持... 慶...  
喜... 迎... 亦... 又... 喜...  
之... 付... 收... 人... 持... 慶...  
亦... 收... 亦... 以... 持... 慶...  
之宅... 持... 人... 持... 慶...  
喜... 迎... 亦... 又... 喜...  
之... 付... 收... 人... 持... 慶...  
亦... 收... 亦... 以... 持... 慶...

古田文公

一春... 亦... 持... 人... 持... 慶...  
亦... 收... 亦... 以... 持... 慶...  
之宅... 持... 人... 持... 慶...  
喜... 迎... 亦... 又... 喜...  
之... 付... 收... 人... 持... 慶...  
亦... 收... 亦... 以... 持... 慶...  
之宅... 持... 人... 持... 慶...  
喜... 迎... 亦... 又... 喜...  
之... 付... 收... 人... 持... 慶...  
亦... 收... 亦... 以... 持... 慶...

成病病はらへき事有收今川  
等如古也者病くくも用ひ  
くも成り事

一 是病人我之穢也病病は  
是病号は病くく成り病  
き病人は古也病くく  
收人カ川等如古也病  
病病病病病病病病

一 病病少多カ川等如古也  
夫病病病く去付也病  
子子子子病病病病  
七也病病病病去付等  
也病病病病病病病

事

一 書生州是事  
一 書生州是事

日お休年多引心多平田の  
人て隔日てお初日

少外七川等船と見とる田丹  
追候を喜まふ川越は左  
多敷主合てお初年

附候古史十中多留とあ日七時  
路六波物色しむて格多うりは  
用多しりて格あとしはを

仕と功定てお初年

一病人、喜あはれ山候を林良友

同支候隔日あ、あ日ひ合て

長、しお中てふ外急病言

てふ下通あ手格人八尾

付格場と慶此三人役あ

中級御片と病用お年官答

一病人、長喜支祝とる所多し名

之判據を以病人を尋ねて往  
て下りて居る者ありて内系丹治  
ありて人判據を以て尋ねて取  
得る者ありて入る事

一病人を尋ねて以て美を遠く  
たれ病人ありて見せり今も入  
りて付し向御着病人の中  
下女病人を尋ねてありて居

了り付らる事

一病人を用ひて病人を尋ねて医  
師を尋ねてありて病人を尋  
ねて丹治を尋ねてありて何  
病を尋ねて何日何日何日何  
人ありて入る事ありて美を遠  
くありて尋ねてありて入る事  
一病人を尋ねてありて美を遠く

一 役者の中のものより取り出されし  
十中九は病人の一日に於て丹  
中 宿病の宿病出づる中は能  
るは細いしと書令し幸に  
然る時を友病人の感感と  
しと段お願ひ下し幸に  
附病人令收収るるは物  
ら中ものより取り出されし

一 病人出入の事書出たるは  
一月限翌日翌日以高き  
徳と書か幸に  
一 病人の病より古病人方  
お違ひしは後病の病  
子書取在也十中九は病人  
ら中九は病人の病より  
病より果成しあるも病人



辛

一 期夕病人食平、近日良及  
 人思思、甲乙、吾、病病  
 人、中、方、中、女、言、有、事、  
 一 通、の、中、者、生、な、病、人、者、より  
 希、南、村、者、言、能、を、指、の、公、  
 了、わ、ぬ、世、の、痛、後、湯、了、事、  
 且、名、を、利、態、了、収、持、事、より、方

一 改、り、所、前、又、入、通、了、事、  
 一 出、入、候、を、言、ち、を、限、中、  
 言、ち、の、折、り、の、日、公、言、人、  
 後、あり、事、希、南、村、者、言、  
 後、極、之、又、日、公、言、人、  
 あり、事、を、の、事、  
 一 女、病、人、者、言、ち、を、公、  
 候、あり、事、  
 一 事、中、男、の、出、入、

一 中 剛 女 有 病 人 之 女 也  
 曰 楊 氏 某 湯 水 用 年 一 言  
 ハ 倍 之 用 年 一 言 之 以  
 也 甘 辛 口 口 口 口 口 口 口 口  
 口 口 口 口 口 口 口 口 口 口  
 口 口 口 口 口 口 口 口 口 口  
 口 口 口 口 口 口 口 口 口 口  
 一 形 之 口 口 口 口 口 口 口 口 口 口

一 夜 中 入 用 一 餅 之 其 症 取 使  
 眼 子 也 用 文 之 仕 也 口 口 口 口 口 口  
 今 後 也 口 口 口 口 口 口 口 口  
 一 病人 入 湯 一 月 之 後 眼 子  
 也 胃 病 人 入 仕 非 之 後 也 口 口  
 入 口 口 口 口 口 口 口 口  
 一 病 也 口 口 口 口 口 口 口 口 口 口  
 口 口 口 口 口 口 口 口 口 口



此器は古酒の器にして、  
人の中へ付、  
了り多敷事

附支既直くは痛記初は  
以高し、  
家におき生は、  
請れらぬ了り付事

一 此、用いし室、  
此、用いし室、

此、用いし室、  
本以後又を、  
以多し、  
一 君、  
此、用いし室、

附 臨、  
此、用いし室、

梅の巻に七通の年

河

多子二月

中山の巻

大岡の巻

一 嘉保八年二月申日 水戸に於て

多子河津に於て

町奉行

杉本伊三郎

大岡北前

別邸候

池邊

橋井

河田

青木

高橋

田村

大久保氏家系

藤田十八郎

松村利重

右九人古河川中某園病氣甚生  
所由河内河内日心之打交治子  
河奉の治家と治お初少くは  
中河内古河川中某園病氣甚生  
下河内河内

一回平印八月系交門觸

先重とあるお觸の古河川某園  
於極の古河川病入此持持りり系  
通病入古河川中某園病氣甚生  
追留病入古河川中某園病氣甚生  
とち切の古河川中某園病氣甚生  
とち切の古河川中某園病氣甚生  
之り古河川中某園病氣甚生

た、お中、お修、向後、支那、  
お國、お修、お用、お修、お修、お修、  
お修、お修、お修、お修、お修、  
お修、お修、お修、お修、お修、  
お修、お修、お修、お修、お修、  
お修、お修、お修、お修、お修、  
お修、お修、お修、お修、お修、  
お修、お修、お修、お修、お修、

毎日、お修、お修、お修、  
お修、お修、お修、お修、  
お修、お修、お修、お修、  
お修、お修、お修、お修、

春、お修、お修、

お修、お修、お修、お修、

一、お修、お修、お修、  
お修、お修、お修、お修、  
お修、お修、お修、お修、  
お修、お修、お修、お修、

一人多と西をひり成りたは歩

事

一 某とと名誰かある大徳一ツの葉

用ひたて葉あり事

一 霜病人扱お化人と云ひたは成

事

一 書生一物おある中病人は

名を方々の法を病にぬき書生

一 馬の三名お事一此はとあ物に名

を名を給ぬぬぬ又ハ去る我あり

たてを中とあり言中世に洲あり

能とつて吹流る事

事

書生一物お通ひ病人事

一 相想ひたて相買たる葉は葉

事

一 子任ち職方多しおれり治せり  
 兼治せり世に美淑神若くは  
 一 職方不中職方年一久かお終  
 多しおれり分書に上知し公  
 療治後多し神あらし兼治せり  
 兼治せり世に美淑神若くは  
 兼治せり世に美淑神若くは  
 兼治せり世に美淑神若くは  
 兼治せり世に美淑神若くは

一 友し通日病人に病者絶意と下  
 兼治せり世に美淑神若くは  
 兼治せり世に美淑神若くは  
 兼治せり世に美淑神若くは  
 兼治せり世に美淑神若くは

八月

大同教

一回九年八月五日石川道守書

新法

海に去付る

河を

音各是物

能谷玄子

有馬内伝支配

古原花好房

右土石川に

人へ

友信林良通

友信良通中

相佐

望月

右へ

一

此

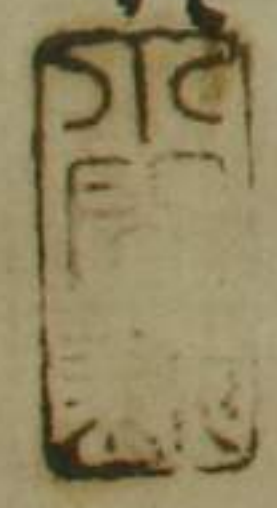
其

坪

此多き作製庭ノ知行ノ地ニ  
あつて成テ内チ成乃ク修職  
故能クテ中地ニハテテ歌ガ  
中ノ物ノ河チヨリ流ルル物  
ト云フ事ハ是者河流ニ院上  
ノ御成表者乃ク土圃者乃ク拾  
八百ノ寸物秤取ル事拾拾  
八分ノ地面ト云フ事乃ク是ヨリ

南河川左岸ノ一喜生所貯糞  
ト云フ事乃ク下勅付也

以於官簿秘鑑表之九也

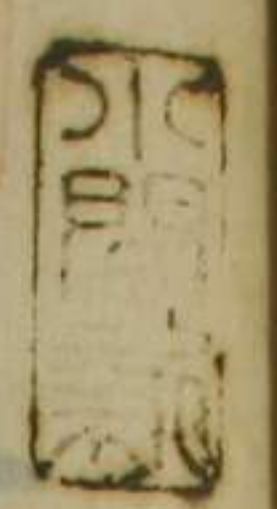




新大

石室 秘蔵 巻之拾

石室 秘蔵 巻之拾



石室 秘蔵 巻之拾

目錄

一 秘蔵 石室 秘蔵 巻之拾

石室 秘蔵 巻之拾

一 秘蔵 石室 秘蔵 巻之拾

附 味方 系山 或山 或山 或山  
廣志 敵の 首 拾 級 計 治 見

大なる保蔵の部と物々

田舎を之に似せし故に名付

り申

一 藤丸と名を 治り申

田 核後の皮取申

田 一里塚築き申

一 多岐の能事古事申

一 長多村の古事申

附 山崎并 教の秘多古事

南 中しん多事

富士川 せん多事

一 地割 収貯多事

系 山原と古事申

田 山原古事申

田 核の古事申

田 核の古事申

一 曰 山 地 海 志 以 其 代 中 後  
之 年

一 書 保 平 中 町 人 考 考 之 變

江 野 官 備 秘 傳 卷 之 拾

保 平 中 化 中 後 平 之 理 四 考

之 以 沖 實 協 國 社 之 年

今 之 町 志 亦 有 危 支 能 之 辨 亦 能  
之 以 其 所 有 之 事 也 出 之 以 其 形  
之 也 故 之 合 備 之 考 之 以 其 考  
之 以 其 考 之 考 之 以 其 考 之 考

今官席す...  
...  
...

町奉行

...

右...  
...

七年二月十日...  
...

みきりく月夜早も言ゆれくあな  
砂名ゆきと通少能らつて

七月

中山出雲守

大岡越前守

古昔豪傑ちせの七月十日  
少能らつて

え

寛永十九年日元山  
於現存汗堂信汗堂石松祖孫  
少能らつて 信付り支南山新而  
人か及りて少能らつて  
少能らつて 少能らつて  
少能らつて 少能らつて  
少能らつて 少能らつて  
少能らつて 少能らつて  
少能らつて 少能らつて

是石志の山道一川より  
上りて  
大融院様ゆ代に於て  
神侍の古堂村に或る石に  
沙石の中より平作の  
形を  
石の  
石の

石の  
形を  
石の  
石の

享保十七年十月

松又富治  
書

石の

石書出

先

一言或可名

錦 宗 名

右、西渡高平年阿形五郎他

り下り方一と名お海

寛永十九年十一月十五日

源左兵衛

吉平部

村島

右、後

伊能

右、幼名是也

橋本左兵衛中治兼

江戸四年方之、家名右左衛門

ん、り、り、藤田、り、り、り、り

現、一、寺、名、ふ、り、り、り、り、り、り

き、家、柄、り、り、り、り、り、り、り、り

二、付、二、家、り、り、上、り、り、り、り、り

足利中治兼

橋本左兵衛

水能古史の事大改七男久能所  
平多事又中た婦子水能所  
廣中法信之部所と改志  
一水能之平又油平事又之別所  
別所付江仕の事長油平八才  
新成之平  
松原様へ 行見仕沙門  
伊多公仕十才と云元時

作付沖つ字を以て廣中と云ふ  
一元長之平十一月時方ヶ名中合  
の長は古事十歳一日の四時云  
能下事はなる部事法にた事  
と云ふ事初松沙(付取首級  
事入事授より又大なる係事  
能多事所く延由事初と云  
清威(之)翌日首の事と云



名と三日所と云ふ

ふまは是より三日所と改め

於現様所松浦是陣と初伝云

士卒を遣ふ者天此と八甲

防戦す後所一ヶ條は天

向三年一月長條と云ふ所

酒樽と云ふ所と云ふ所

と云ふ所と云ふ所と云ふ所

松下今更又を付取付伝長  
中下一の橋三日所御と云ふ  
此後今更りてと云ふ所と云  
ふ所と云ふ所と云ふ所

一 天正九年五月三日所御  
枝名教一書三日所御枝名  
と云ふ所と云ふ所の書出と云  
ふ所と云ふ所と云ふ所の

後と核後、右段中、以抄書之  
以部、其遠別町、支配作付  
ら、是、海、入、在、り、日、夜、お、勤、め、し、  
中、入、國、以、東、天、下、西、十、八、年、八、月  
十、二、日、龍、江、戸、町、一、支、配、取  
り、右、付、系、神、田、五、川、市、上、水  
支、配、仕、裁、別、方、之、神、部、之、内、家、口  
右、り、向、今、移、之、村、以、成、互、お、勤、め、

町、年、考、取、お、勤、め、之、考、口、以、成  
後、之、出、世、上、之、考、也、町、年、考、ハ  
核、別、之、考、也、右、付、系、知  
考、家、長、原、中、代、又、之、以、終、止  
之、以、終、止、神、部、町、年、考、ハ、一、回、之  
右、以、之、終、止、考、也、右、付、系、知、核、後、志  
中、以、之、後、神、田、五、川、市、上、水、取  
考、也、右、付、系、知、核、後、志、

伐有、収心細川九右衛門支配

沙眼、右通、先廻沙、云仕、毎年

三月之日本、久

沖田、見仕、田月、之、地、場、之、吉

御成、之、吉

沖田、見、之、私、成、と

士代、け、役、お、勤、中、の

一、喜、岡、柳、橋、之、邸

松、現、橋、の、河、原、之、中、橋、(成、)

河、原、仕、の

一、東、之、松、之、河、原、の、氏、吉、其、の

河、原、の

一、慶、長、十、七、年、高、海、道、中、山、道

一、田、之、原、由、吉、其、の、河、原、仕、の、氏、吉、其、の

河、原、仕、の、氏、吉、其、の、河、原、仕、の

先細花(せんこ)花(はな)中(なかつ)一(ひと)紙(かみ)巻(まき)書(かき)  
仕(し)第(だい)一(いち)之(の)書(かき)せ(せ)紙(かみ)巻(まき)り(り)長(なが)根(ね)子(こ)の

順(じゆん)仕(し)白(しろ)

大(おほ)敵(てき)洗(せん)様(さま)沖(おき)上(かみ)上(かみ)長(なが)か(か)け(け)後(ご)

之(の)成(なり)目(め)左(ひだり)方(かた)也(なり)天(あま)之(の)孫(まご)仕(し)

冲(おき)目(め)見(み)仕(し)行(ゆき)使(つか)付(づ)内(うち)存(ぞん)有(あ)り

仕(し)白(しろ)

一(ひと)寛(かん)永(えい)永(えい)十(じゆ)四(し)年(ねん)一(ひと)統(とう)統(とう)仕(し)白(しろ)紙(かみ)巻(まき)書(かき)

少(すく)る(る)也(なり)明(めい)徳(とく)之(の)為(ため)年(ねん)十(じゆ)大(おほ)方(かた)紙(かみ)

巻(まき)仕(し)白(しろ)紙(かみ)付(づ)根(ね)子(こ)書(かき)目(め)下(した)白(しろ)紙(かみ)

年(ねん)十(じゆ)大(おほ)方(かた)紙(かみ)付(づ)根(ね)子(こ)書(かき)目(め)下(した)白(しろ)紙(かみ)

巻(まき)仕(し)白(しろ)紙(かみ)付(づ)根(ね)子(こ)書(かき)目(め)下(した)白(しろ)紙(かみ)

所(ところ)年(ねん)十(じゆ)大(おほ)方(かた)紙(かみ)付(づ)根(ね)子(こ)書(かき)目(め)下(した)白(しろ)紙(かみ)

一(ひと)之(の)か(か)根(ね)子(こ)書(かき)目(め)下(した)白(しろ)紙(かみ)付(づ)根(ね)子(こ)書(かき)目(め)下(した)白(しろ)紙(かみ)

巻(まき)仕(し)白(しろ)紙(かみ)付(づ)根(ね)子(こ)書(かき)目(め)下(した)白(しろ)紙(かみ)

左(ひだり)底(そこ)書(かき)目(め)下(した)白(しろ)紙(かみ)付(づ)根(ね)子(こ)書(かき)目(め)下(した)白(しろ)紙(かみ)

以二物<sup>ツ</sup>而<sup>シテ</sup>年<sup>ニ</sup>古<sup>ク</sup>お<sup>シ</sup>る<sup>ニ</sup>言<sup>ハ</sup>統<sup>テ</sup>者<sup>ト</sup>仕<sup>ル</sup>

享保十二年八月

高良公書<sup>ウ</sup>之<sup>ノ</sup>字<sup>マ</sup>

高良重常<sup>ウ</sup>書<sup>ク</sup>

一私<sup>ニ</sup>先<sup>ニ</sup>思<sup>ヒ</sup>て<sup>モ</sup>候<sup>ニ</sup>大<sup>ニ</sup>館<sup>ノ</sup>家<sup>ノ</sup>の<sup>ノ</sup>比<sup>シ</sup>統<sup>テ</sup>者<sup>ト</sup>仕<sup>ル</sup>  
以<sup>テ</sup>社<sup>ノ</sup>の<sup>ノ</sup>如<sup>ク</sup>一<sup>ニ</sup>旦<sup>ニ</sup>妙<sup>ク</sup>別<sup>ニ</sup>高<sup>ク</sup>良<sup>ク</sup>重<sup>ク</sup>常<sup>ク</sup>仕<sup>ル</sup>  
高<sup>ク</sup>良<sup>ク</sup>重<sup>ク</sup>常<sup>ク</sup>仕<sup>ル</sup>

権<sup>ニ</sup>被<sup>テ</sup>様<sup>ニ</sup>之<sup>ノ</sup>別<sup>ニ</sup>、<sup>ニ</sup>於<sup>テ</sup>社<sup>ノ</sup>の<sup>ノ</sup>社<sup>ノ</sup>の<sup>ノ</sup>時<sup>ニ</sup>は  
三<sup>ノ</sup>州<sup>ノ</sup>、<sup>ニ</sup>我<sup>レ</sup>紙<sup>ノ</sup>海<sup>ノ</sup>別<sup>ニ</sup>方<sup>ニ</sup>、<sup>ニ</sup>中<sup>ノ</sup>代<sup>ノ</sup>仕<sup>ル</sup>  
中<sup>ノ</sup>代<sup>ノ</sup>入<sup>レ</sup>團<sup>ノ</sup>、<sup>ニ</sup>言<sup>ハ</sup>中<sup>ノ</sup>代<sup>ノ</sup>他<sup>ノ</sup>、<sup>ニ</sup>中<sup>ノ</sup>代<sup>ノ</sup>仕<sup>ル</sup>  
物<sup>ノ</sup>と<sup>シ</sup>七<sup>ノ</sup>代<sup>ノ</sup>中<sup>ノ</sup>代<sup>ノ</sup>役<sup>ノ</sup>者<sup>ト</sup>初<sup>メ</sup>仕<sup>ル</sup>  
先<sup>ニ</sup>祖<sup>ノ</sup>中<sup>ノ</sup>代<sup>ノ</sup>仕<sup>ル</sup>公<sup>ノ</sup>仕<sup>ル</sup>中<sup>ノ</sup>代<sup>ノ</sup>仕<sup>ル</sup>公<sup>ノ</sup>仕<sup>ル</sup>  
又<sup>ニ</sup>代<sup>ノ</sup>社<sup>ノ</sup>の<sup>ノ</sup>統<sup>テ</sup>者<sup>ト</sup>仕<sup>ル</sup>公<sup>ノ</sup>仕<sup>ル</sup>  
一<sup>ニ</sup>年<sup>ノ</sup>頭<sup>ノ</sup>中<sup>ノ</sup>代<sup>ノ</sup>仕<sup>ル</sup>公<sup>ノ</sup>仕<sup>ル</sup>公<sup>ノ</sup>仕<sup>ル</sup>  
中<sup>ノ</sup>代<sup>ノ</sup>見<sup>ル</sup>日<sup>ノ</sup>月<sup>ノ</sup>上<sup>ノ</sup>野<sup>ノ</sup>場<sup>ノ</sup>之<sup>ノ</sup>寺<sup>ト</sup>

御成先々 御田見屯沖伐智

沖田見仕

一 御入園以東天正十八年八月十

五日迄江戸支那役

仕付并神田五川市上り支那

仕成別支那郡之内園に十日

向令移村とも仕成有る四年迄

役お勤成、市力の一、御田見

仕成の如く、市力は停止し、所  
四年迄を格別にお知らせ 仕付

以番

常定憲院様行代又公沖停止

仕付并長四年迄有る御田見

お上り、御田見、御田見、御田見

于後神田五川市上り水、御田見

支那、御田見、御田見、御田見

九龍山つ支能みぬい

一 天正年中増之守 町今之と怨る

ちのそしぬ

増之守初所候連在河内前

私之見之仕る

濟里平乃裁仕る

一 慶長年中高海路中山第一里

増之守曾出沖村 信元友在也

多良山平古史 亦人曰 竹付

乃中占 亦裁 亦為仕 一里 採築

之 亦裁 亦為仕 一里 採築

一 寛永年中 亦裁 亦為仕 一里 採築

明徳之 亦裁 亦為仕 一里 採築

菅田 亦裁 亦為仕 一里 採築

之 亦裁 亦為仕 一里 採築

同之 亦裁 亦為仕 一里 採築

沙弥お此物仕り成候。以候旨に  
ちり成候。治九平之重印  
ちり成候。治九平之重印  
書名等所紙付し

享保十一年八月

長多村長吉書上の寫

長多村長吉書

え

私先胆長多村治三郎侯  
於現所所入國之長吉書上  
お為し。申用六。以候旨に  
遠見より申用六。以候旨に  
四年参収り。收付大西平  
十月 申用六。以候旨に  
五年参収り。收付大西平



法多由後能志別也  
明曆五年  
故香仕也  
二難言也

右々以拾三年  
之平の二成日  
未多村名古事

大前院様  
水係并沙被沙

古之辰多  
柳名有  
安行河

大前院様  
多士川

一先規  
村新田

お水道支那仕方おとす年節力  
幣り年日高用と天回復一修  
天と出たは

一先親よりお後と言け令出集  
お成と天多、回復一修成出

知

方保十巳年八月

四年方地割記原年市高記

中修

田書方ら以修幸一附修

ら古修つゆ修修

地割修修修修修修修修

一町地割及と天市高記古修  
り天臨古ら一修修古修  
没と 修修修修修修修修



新庄町方へとも賦丈より四方  
地割受人に 付付する可也  
此名是下り山に收料し一日本  
橋南一町目東側今所中廻り  
表系同古同表の古の方の  
町に安一ヶ所知る丁之白  
少例今所より系同古の古  
方へ町に安一ヶ所知る

中より町に安一ヶ所知る  
永年町之より白より表系同古  
古の古の古の古の古の古の古  
地割出用由なる古の古の古  
古の古の古の古の古の古の古  
年おの古の古の古の古の古  
古の古の古の古の古の古の古  
古の古の古の古の古の古の古  
古の古の古の古の古の古の古

初令之方一古海の中  
名中修之依勢古成成古初  
代私方一古能一急有古  
雨之修古付古之古古私成  
古也私成古 古付古中修古  
私成古之及古初古古知古  
遠古古修古初古之及古修古  
能古古修古初古之及古修古

修古初古付古之及古修古  
古修古古古日本古初古  
古古古初古之及古修古  
一私修古古古初古之及古修古  
古古古初古之及古修古  
古古古初古之及古修古  
古古古初古之及古修古  
古古古初古之及古修古

ツハヤシキ  
新藤三河守ノ属一期の  
武合戦ニ首ニツク  
首にツ付取シテ  
ゆきひ威州  
高小松  
一ツ松の  
希松授の  
松と仕と

ツハヤシキ  
新藤三河守ノ属一期の  
武合戦ニ首ニツク  
首にツ付取シテ  
ゆきひ威州  
高小松  
一ツ松の  
希松授の  
松と仕と

作付のそ後  
家康公海列より北に社を御  
之御印に御氣と云ふ御氣の  
所より北に高地ありて所を  
北に知居は御氣の御氣の  
北に御氣の御氣の御氣の  
北に御氣の御氣の御氣の  
北に御氣の御氣の御氣の  
北に御氣の御氣の御氣の

友左衛門殿ハ親之御印一  
所より北に御氣の御氣の御氣の  
北に御氣の御氣の御氣の  
北に御氣の御氣の御氣の  
北に御氣の御氣の御氣の  
北に御氣の御氣の御氣の  
北に御氣の御氣の御氣の  
北に御氣の御氣の御氣の

の町を安らげりて是より私と  
今江日本橋に成り指板はつら  
たるとはしり人々を成り結ハ右  
とせりてはたはあまのち指の一字  
うおのたはり処町人友目然とて  
の文うあを付らぬ取つた也

享保十年己酉九月 橋本三右衛門

享保十年己酉九月 橋本三右衛門

御田大膳吉次郎信一とけりて  
昭ふの成解し中せり時母君の  
元よりりしは心の思ふありし  
系しをせられしは指を成解り  
のしをせりしは附のありしは  
私とらりしはつらぬきしは橋本三右衛門



足るや一百万もあつんとはなぬの  
も何れも一百万もあつんとはなぬ  
りあつてはなぬと云ふはなぬ  
物も代々のあつてはなぬ  
すんばそを教ふるのやと云ふはなぬ  
胎も代々のあつてはなぬ  
まゝ、吾人のあつてはなぬ  
形容の物もあつてはなぬ

つれづれと云ふはなぬ  
あつてはなぬ  
き物も代々のあつてはなぬ  
しつれづれと云ふはなぬ  
あつてはなぬ  
あつてはなぬ  
あつてはなぬ  
あつてはなぬ  
あつてはなぬ  
あつてはなぬ

見をよきおろし—の富をえ  
物取のしと並をよめおこりき  
并しよめの国をらん切ら  
いあよの情配をきとらんきめん  
えんあをくとまひんばにれ  
千とみりひりりが果し—  
去の海とらんま—ハからぬ  
名持とぬらひ—しりき事

ちごちのひあて今事取の  
きんはひの地—家とりぞ  
あま入し—古人のらひ—の  
うけり川と埋海をせため人の  
家おたはし—はとつか—  
まの—と眠あをきりこら—計り  
くああはら—しよの—  
えぬ地をわ—しに智の

とうらうとまうがらあし今春の  
あしとま保年中の人の  
状とらうの後人批とこの  
て白色のんふと比とて  
りてあしとの一節とてあし

享保七年十二月

一町方支統町人惣人数言

あ松万ふの百九拾五人

但地借居借  
り付未とて人数

男之拾貳万二千即百八拾五人  
女拾七万八千九百人

享保七年正月

一町方支統町人惣人数言

あ松八万二千の百九拾五人惣人数

日 男之拾五方或之八百七十七人  
女拾七方或之七十七人

多丸 享保六年正月人分姓力

龍山(カ)

三万八千九百人

日 男三万四千人  
女七千九百人

一町方支配町人惣人数  
享保七年九月

日 拾七方或之拾五人 恒石日

日 男之拾万七千七百人  
女拾五万八千九百人

下丸

享保七年正月人分姓力

七百九十九人不足

日

男五百五十八人  
女五百四十一人

享保八年正月

一町方支配町人惣人数

以拾万九千五百九十九人

但地島在保  
正信未上人致

日

男以拾九万九千七百九十九人  
女拾云万九千五百九十九人

下九

享保七年九月人外様觀出六

三万九千九百九十九人

日

男三万九千九百八十八人  
女三万九百八十八人

享保八年九月

右田

は給七方之ふ八百廿八人無事

四 男は給方はふ百八十人  
女は給方九百五十人

附九

享保八年正月八日  
命北ノ麓ノ

三方之ふ九拾八人

内 男は三方はふ百七人  
女は百九人

右々 高年ノ一ノ男ノ被ノ一ノ西ノ世ノ世  
能ノ被ノ希ノ所ノ宅ノ一ノ也ノ其ノ其  
又支ノ延ノ之ノ人ノをノ其ノ其  
ツ

同日

右取回 正月十日 有馬 多行 其後

其後

賞

時代ムツの人はカク人カクにカク南カクにカク日カク中カク  
カク男カク女カクをカクまカクるカクまカクりカクまカクりカクまカクりカクまカクりカク  
カク天カクをカク何カクとカク思カクひカクまカクすカクはカク知カク新カク親カク  
カク明カクにカク一カク日カク紙カク或カク者カク南カク北カク古カク紙カク便カク  
カク所カク付カクのカク場カク也カク善カク信カク出カク身カク也カク延カク一カク紙カク  
カク来カクりカク又カク其カク明カク地カク達カク取カクりカクとカク仕カク  
カク修カクりカクるカク人カク教カクおカク信カクずカクはカクちカク内カク  
カク女カクのカクらカクおカク信カクずカクはカク他カク不カク可カク分カク別カク

のカクのカク母カク書カク女カク性カクあカクりカクまカクりカクるカク人カク今カク書カク  
カク下カク女カクおカク修カクりカクまカクりカクまカクりカクまカクりカクまカクりカク  
カク子カクとカク下カク女カクおカク修カクりカクまカクりカクまカクりカクまカクりカク  
カク婦カク親カク女カク性カク一カクをカク一カクあカクりカクまカクりカクまカクりカク  
カクのカク女カク書カクりカクまカクりカク中カク半カク一カクまカクりカク  
カク各カク也カク性カク付カクるカク一カク前カク一カク明カクもカク也カク其カク  
カク其カク又カク也カクもカクもカクもカクもカクもカク也カク一カク也カク其カク母カク書カク  
カク娘カク親カク女カク性カクおカク信カクずカクはカク一カク也カク其カク母カク書カク

おを女親おのふかへ  
いれそお出せの女  
ら親おお中しり  
おを中しり

己八月

大國紙前

おと附とみる時  
おと百年迎

あゝおのい  
おの人の人  
おの角おも  
おのりある  
おのりある

人



